

図書館をプレゼントした人

荏田 平五郎



プレゼントと言つと、すぐにケーキとかゲームなどが頭に浮かびますが、これは、当時の国内でも珍しい、「図書館まるごと」のプレゼントなのです。

図書館は、建物だけでは何の役にも立ちません。何千冊、いや何万冊もの本や、貴重な古文書(*1)などを収めておく書庫、また、読みたい本を探せるよう、くふうして置かれた本棚や、じっくり腰を落着けて読んだり、研究したりできる閲覧室、そして机と椅子……。いろいろと気配りしてお世話をする職員の人たちなど、数えればきりのないほど、費用のかかる大がかりな準備が必要です。

ケーキは一口でおしまいますが、本から得られた知識や考え方は、その人の人生の中で、いつかその人の力となり役立つ日が、必ずくると思います。

荏田平五郎は、嘉永元年(一八四七)、白杵の塩田で生まれました。二十歳を迎えた、慶応三年(二八六七)、藩からの命令で江戸に上り、主に英語の勉強をしました。

ペリー来航の安政元年(一八五四)から、十数年ほど経っていますが、そのころ日本国中の各藩では、「文明開化のご時勢(*2)に遅れてはならない」と、各藩のすぐれた秀才たちを、長崎や江戸などへ送り、競って「洋学(西洋の学問)」を学ばせていたのです。平五郎も、そうした一人だったわけです。

しかし、ちょうどそのころ、江戸では戦争が起こっていました。第十五代の将軍「徳川慶喜」は「大政奉還(*3)をしたのですが、それを不満とする一部の幕臣たちが、鳥羽・伏見(今の京都付近)、そして江戸上野、北陸から蝦夷地(北海道)にかけて内戦(戊辰戦争)を起こしたため、

*1 古文書…昔の記録や文書

*2 ご時勢…時代の流れ、なりゆき

*3 大政奉還…政治の中心を朝廷に戻すこと

平五郎は一時江戸を離れ、鹿児島で勉学を続け、内戦もほぼ治まった明治二年（一八六九）再び上京、福沢諭吉が開いたばかりの「慶応義塾」に入学を許されます。

「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と、「学問のすゝめ」の中で説いている諭吉のことは、社会科などで勉強したことがあるでしょう。実は、この諭吉と白杵藩との間には、切っても切れない関係があるのです。そのため、「慶応義塾」には、そのとき白杵から、荘田平五郎をはじめ、箕浦勝人、丸毛豊太郎、山本達雄など、三十数人もの人たちが入塾を許され、そのころの日本でも最先端の学問を学んでいるのです。

諭吉が江戸で塾を開いたのは、安政五年（一八五八）のことですが、その前、大阪の「適塾」で勉強していたころがあります。そのときとても金に困ることがあって、いろいろと考えたすえ、白杵の「学古館」で先生をしていた、同じ中津藩出身の白石照山を思い出し、自分の蔵書百二十六冊を担いで、はるばる白杵を訪れます。ところが、なんと、その照山の世話で白杵藩は、その本のすべてを十五両の大金で、買ってくれたのです。白杵藩の好意を、諭吉はどんなに有難く思ったことでしょう。白杵藩出身の多くの若者たちを引き受けてくれたのも、諭吉がその恩義を忘れなかったからではないでしょうか。

明治八年（一八七五）平五郎は、慶応義塾での勉学を終え、諭吉の世話で、三菱商会に入社します。福沢諭吉と、「大三菱」の創始者（*4）岩崎弥太郎とは深い親交があり、その関係で入社したわけですが、平五郎はその後、岩崎弥太郎の片腕（*5）として、「東京海上保険」、「明治生命保険」、「三菱造船所」などの幹部をつとめ、大いに活躍します。

荘田平五郎は、その後、明治二十三年（一八九〇）の白杵小学校新築や、二十七年（一八九四）に起きた「北海道郡洪水」のときの窮民救済（*6）、翌二十八年の道路補修など、たびたび郷土白杵に救援の手を差し伸べていますが、特に皆さんによく知られているのが、「白杵図書館」の

- *4 創始者：会社や学校などをはじめて作った人
- *5 片腕：頼みになるいちばんの部下
- *6 窮民救済：困っている人たちを助ける

寄贈だろーと思ひます。

敷地——四百十一坪の購入、本館——五十一坪、書庫——十五坪、そして、管理用住宅、正門、石塀の建設などに加えて、図書館に必要な器具と、和・漢・洋(日本・中国・西洋)の図書三千冊、雑誌類二千冊、運営費のたしにと株券など、想像もつかないほどの巨額のプレゼントだったのです。

平五郎は、つねつね、

「自分が慶応義塾にまで進んで勉学ができ、また、大三菱の幹部として活躍の場を持つことができたのも、すべて白杵からの奨学金とご好意のおかげである」と、有難く思い、その恩返しをしたいといつも思っていたのでしよう。

大正七年(一九一八)に完成したその建物は、最近まで「郷土資料館」として利用されていましたが、平成十五年(二〇〇三)になって、「荘田平五郎記念」でも「図書館」として生まれかわり、「白杵っ子たち」皆さんが、いろんなことに興味を持ち、この図書館で本を読んだり、調べたりしてくれるのを待っています。

白杵っ子たちが、心も体もたくましく成長し、世の中に出ていく姿を、大先輩「荘田平五郎」は期待しながら、遠い空から見守っているに違いありません。



◆考えてみましょう

- ① あなたは、荘田平五郎のことを知っていましたか。どんなことで知っていましたか。
- ② 荘田平五郎が、ひるやと白杵のために、数多くのプレゼントをしたわけを考えてみましょう。
- ③ あなたは、白杵のどんなところが好きですか。また、どうあつて欲しいと思ひますか。

この資料は、平成十六年白杵市教育委員会発行の「心の響き」より荘田平五郎氏に関する部分を抜粋したものです。